

人の可能性を照らせ。



令和2年5月20日
株式会社 QD レーザ

家電小売業界初

「RETISSA® DisplayII」 ビックカメラでの取扱開始

有楽町店で実機の体験・購入が可能。

株式会社 QD レーザ（本社：神奈川県川崎市、代表取締役社長：菅原充）は「RETISSA® DisplayII」を、株式会社ビックカメラ（本社：東京都豊島区、代表取締役社長：宮嶋宏幸、以下、ビックカメラ）のコンタクト事業部と連携し、ビックカメラ有楽町店およびインターネット通販サイト「ビックカメラ・ドットコム」（<https://www.biccamera.com/>）にて、5月21日より販売開始いたします。ビックカメラ有楽町店2階及び6階では実機を常設展示し、どなたでも RETISSA® DisplayII を体験いただけます。家電小売業界による実店舗での取り扱いは初となります。



図. 「RETISSA® Display II」

【製品概要】

RETISSA® Display II は、三原色レーザー光源からの微弱な光と高速振動する微小な鏡（MEMS ミラー）を組み合わせ、網膜上に映像を描き出すレーザー網膜走査技術「VISIRIUM®テクノロジー」を採用したヘッドマウントディスプレイです。超小型プロジェクタユニットから、片眼の視野中心部（水平視野角約 26 度、アスペクト比 16:9）に、HDMI 端子で接続できる機器からのデジタル映像を網膜に直接投影することができます。原理上、装着者のピント調節機能の影響を受けにくく、近視、遠視、乱視、老眼などがあっても眼鏡やコンタクトレンズなどの矯正手段を用いずに投影映像を見ることができます。また、ピント位置の影響なく視野に映像が重なるため、背景と投影映像のピントずれがない AR（拡張現実）体験が可能となります。

【製品のポイント】

- 網膜上でのビーム品質をチューニングすることで解像感の向上を実現し、より小さな文字（汎用の AR 製品や、弊社前モデルと比較しておよそ半分の大きさ）まで判読可能*1。
- 市販のモバイルバッテリー*2 などを利用してさらに長時間駆動が可能。

- シンプルで軽量デザインのフレーム：オリジナルフレームは約 24g（プロジェクタ、レンズホルダ除く）と非常に軽量で、プロジェクタ固定位置の調整も簡単にできます。取り外し可能なレンズホルダは、レンズの交換にも対応。
- 投影の左右が切り替え可能：本品ではスイッチで簡単に画像が反転でき、フレームへの固定位置を変えることで左右の切り替えが可能。
- 音声出力用端子を搭載：ステレオミニジャックを搭載し、HDMI 信号に含まれる音声をイヤホンやヘッドホン*2 で聞くことができます。
- 電源供給用 USB 端子を搭載：映像ソースとなる機器への電源供給のため、USB ポート（5V、500mA）を搭載しました。無線キャストアダプタ*2 などを接続することにより、映像視聴をお楽しみいただけます*3。

*1 当社検証による。見え方には個人差があります。

*2 別売り。すべての機器での動作を保証するものではありません。

*3 外部機器への電源供給時は、バッテリー駆動時間が短くなります。

【主な機器仕様】

項目	RETISSA® DisplayII
投影方式	レーザー網膜投影(第二世代)
光源	RGB レーザ
視野角/アスペクト比	水平 26 度/16 : 9
色再現性	256 階調
投影解像度	720P (1,280×720) 相当@60Hz
明るさ	光出力 0.39 μW 未満
映像入力	HDMI Type A
対応入力解像度	1,920×1,080 60p / 1,280×720 60p 720×480 60p / 640×480 60p
音声出力	φ 3.5mm ステレオミニジャック
電源入力	DC 5 V(USB micro-B 端子)
電源出力	DC 5 V(USB Type-A 端子)
バッテリー容量(公称)	3,880mAh
駆動時間	約 200 分(外部負荷なし)／約 130 分 (電源供給時)
外形寸法 (幅×高さ×奥行)	プロジェクタ部：65×20×83.5mm (最大突起部含まず) コントローラ部：74×29.25×150mm (最大突起部含まず)
重量	プロジェクタ部：約 40g コントローラ部：約 260g

仕様は予告なく変更の可能性があります。

【株式会社 QD レーザ】

富士通株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：時田隆仁、以下、富士通）と三井物産株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：安永竜夫）傘下の Mitsui & Co. Global Investment, Inc.（設立当時：株式会社エム・ヴィー・シー）の出資で、2006年4月に富士通からのスピンオフベンチャーとして設立されました。株式会社富士通研究所（本社：神奈川県川崎市、代表取締役社長：原裕貴）と東京大学との10年以上にわたる産学連携による共同開発を基に、可視光領域から波長1300nm帯までの量子ドットレーザーをはじめとする高性能の半導体レーザーの開発・製造・販売を行っています。「人の可能性を照らせ。」というコーポレートキャッチフレーズは、レーザー及び光学技術で社会に貢献していく当社の意志を象徴するものです。

網膜走査型レーザーアイウェアの技術は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）によるクリーンデバイス社会実装推進事業、平成27年度課題解決型福祉用具実用化開発支援事業等の支援を受けながら開発を続けてきております。

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社 QD レーザ 視覚情報デバイス事業部

メール retissa@qdlaser.com

<https://www.retissa.biz/>

- ・ RETISSA、VISIRIUM は株式会社 QD レーザの登録商標です。その他の記載されている製品名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標です。
- ・ 見え方には個人差があります。
- ・ 開発中につき、予告なく仕様等の変更が行われる場合があります。
- ・ 本製品は医療機器ではありません。視覚障害の方の利用を意図するものではありません。